

(参考様式2)

令和 3年 4月 23日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年 4月 22日 ~ 令和 3年 4月 23日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	全国市町村国際文化研修所
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	令和3年度市町村議会議員研修「2日間コース」 第1回「防災と議員の役割」
対応者/講師名	名古屋大学減災連携研究センター 教授 福和 伸夫 氏 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏 防災企業連合関西そなえ隊事務局 湯井恵美子 氏 長野市企画政策部復興局復興推進課 課長 小池 啓道 氏
目的	平時及び災害時の議員の役割について学ぶ
概要	スケジュール 1日目 13:00~14:30 講義 過去の災害教訓を生かした防災・減災 14:45~15:55 講義 平時の防災と議員の役割 16:10~17:30 演習 平時の防災と議員の役割 17:40~18:20 意見交換会 2日目 9:00~10:10 事例紹介 令和元年東日本台風災害の被災地長野での 対応~避難所の運営について~ 10:25~11:30 講義 災害時、復旧・復興期の議員の役割 12:30~13:35 演習 災害時、復旧・復興期の議員の役割 13:45~14:45 講義 ふりかえりとまとめ

<p>概要</p>	<p>上記スケジュールにより各講師より講演・演習・事例紹介をしていただいた。</p> <p>1 日目は、まず、福和伸夫教授より過去に起きた自然災害の歴史を学び、今後発生するであろう南海トラフ地震への対策としてのライフライン・インフラの強化の必要性、平時での社会の不具合を探し修正しておく重要性を説明いただいた。続けて、鍵屋一教授からは、変化する社会構造の考察から始まり、阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震などを例に防災のコツ、避難時の正常化バイアスによる被害の拡大について講義をいただいた。その後、平時の防災をテーマに岩手県大槌町の災害対応を例にワールドカフェ方式でワークショップを実施した。最後に意見交換を行った。</p> <p>2 日目には、小池啓道氏から、令和元年東日本台風災害の被災地長野での避難所運営について、大切にしたこと・注意すべきこと・被災者の意識の変化などの講義を受けた。続けて、鍵屋一教授から、災害時、復旧・復興期の議員の役割について講義を受けた後、初日と同様の方式で災害時の議会・議員活動について宮城県東松島町の例を基にワークショップを実施した。最後に、まとめとして BCP の意義、議員・議会の役割について確認をした。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>今回の研修では、なぜ被害が繰り返されているのかを検証することにより、平時での準備、見たくないことを見る事、自分自身で考え行動できる能力を涵養しておく事の重要性を感じた。平時においては、災害発生時の指揮命令系統を明確にしておくとともに実効性のある避難訓練を実施しておくことを改めて認識した。発災時には、すべきこと・してはならないことをよく認識した上で、正常化の偏見を取り除き、被害の拡大防止に努め被災者の尊厳を守る行動を心がけたい。昨年策定した議会BCPをよく理解し、議員としての役割を果たしてゆきたい。</p>

(参考様式2)

令和 3年 5月 14日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年 5月 12日 ~ 令和 3年 5月 14日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	パシフィコ横浜 東京ビッグサイト 青海会場
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	第25回 自治体総合フェア 2021 第12回 教育総合展 EDIX 東京
対応者／講師名	総務省自治行政局地域力創造グループ地域情報課企画室室長 神門純一氏 長野県副知事/長野県 CDO 小岩正貴氏 都城市長兼 CDO 池田宜永氏 (一社) 行政情報システム研究所主席研究員 狩野英司氏 福井県総務人事課企画主査 増田朋之氏 福井県土木部政策推進グループ主事 山本大貴氏 (株) サイバーエージェントデジタル・ガバメント推進室兼 GovTech 開発センター統括 淵之上弘氏 (株) AI Shift 代表取締役社長 米山結人氏 (一社) INSPIRE 代表理事/BBT 大学グローバル経営学科長・教授 谷中修吾氏 関東学院大学法学部地域創生学科准教授 牧瀬稔氏 春日部市副市長 種村隆久氏 東大和市副市長 小島昇公氏 西条市副市長 越智三義氏 兵庫県議会議員 相崎佐和子氏 あきる野市議会議員 小籠敏人氏 可児市議会議員 川上文浩氏 会津若松市議会議員 目黒章三郎氏 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村健氏 (株) グリーンデザイン&コンサルティング販売促進部チーフアドバイザー 富倉元氏 KCC モバイルエンジニアリング (株) ソリューション営業部部长 菅城信繁氏 ワクワククリエイター バービー 栗山町長 佐々木学氏

目的	自治体DX・防災・地方創生・住民福祉・教育について学ぶ
概要	<p>スケジュール</p> <p>5月12日</p> <p>12:00~13:00 自治体DXの推進について</p> <p>13:30~14:30 自治体DXの現在とこれから</p> <p>5月13日</p> <p>12:10~13:00 若手職員自ら県の未来を創る政策提言とAI防災の取り組みについて</p> <p>13:30~14:30 最強の地方創生デジタルマーケティング</p> <p>15:00~16:30 副市長が語る 第1期地方創生の総括と、第2期地方創生の現状と展望</p> <p>5月14日</p> <p>11:00~12:30 議会改革で住民福祉は向上したか?</p> <p>13:00~13:30 東日本大震災から10年。進化を遂げる防災備蓄保存食・保存水のネクストステージとは?</p> <p>14:00~14:30 スーパーシティ構想実現に向けた、IP告知システム「しらせあい」の実証事例のご紹介</p> <p>15:00~15:30 道路付属物の新しいメンテナンスサイクルを実現する「みちてん」シリーズ</p> <p>16:00~16:50 バービーがやっている#栗山町ワクワクプロジェクトとは</p> <p>パシフィコ横浜では、上記スケジュールにより各講師より講演・事例紹介をしていただくとともに、出展ブースにおいて各種説明を受けた。5月12日には、東京ビッグサイト青海展示場で開催されていた教育総合展も視察した。</p> <p>5月12日には、最初の講演では、自治体DXを進めていく上での根拠となる政府閣議決定文書や関係法令を元に総務省の神門室長より説明を受けた。自治体においてDXを推進する意義とは、デジタルを活用することで各個人にあったサービスを選び多様な幸せが実現できる社会の構築であり、誰1人取り残すことのない人に優しいデジタル化であることが示された。自治体においては、デジタル化で住民の利便性を向上させるとともに業務効率化を図ることで人的資源を行政サービスのさらなる向上に繋げていく必要性を示された。次の講演においては、長野県知事と都城市長が各自治体での取り組み事例を紹介されながらCDOの役割、DXの難しさについてパネルディスカッションの方式で説明くださった。その中でCDOの役割とはDXをマネジメントすること</p>

概

要

り、牽引役となること、DXの難しさは各分野における共有化であり拡張性の確保ならびに弱者対策であると示された。また、DXを推進するためには、首長自らがCDOとなり取り組んでいくことの必要性も示された。

この2講演を拝聴した後、東京ビッグサイト青海会場で催されていた教育総合展を視察した。こちらの会場では、十分な時間が確保できなかったため、数社のブースにおいて教育現場の課題等について説明を受けるに止まった。その中では、教育の現場において紙ベースでの小テストなどが多く実施されており、デジタル化の足枷となっているとの説明もあった。

5月13日には、先ず、福井県若手職員により政策提言の仕組み並びにAIを活用した防災の取り組み事例を聴かせていただいた。勤務時間中の20%を政策提言を作成するために配分し、チャレンジ政策提案制度を設け、主体的にグループを作り知事に直接プレゼンするとか、AI音声技術を活用し24時間365日情報提供を受ける事の出来る実証実験などの説明を受けた。次に、BBT大学の谷中教授よりリアルとオンラインを交錯させた地域プロモーションの講演をいただいた。プロモーションの目的仕組みの説明を示された後、高知県の竹虎、奈良県における材木の擬人化等の事例を挙げられ問題解決型の地方創生ではなく価値創造型の地方創生の重要性を説かれ、イノベーションを生み出す4つの原則として、直感的な行動、利害関係者との協業、既成概念にとらわれない新しい価値の創造、縁を活用したビジネスの成長を示された。加えて、アバターを使った観光・教育についても説明いただいた。最後に、春日部市副市長種村氏、東大和市副市長小島氏、西条市副市長越智氏をパネリストとし、関東学院大学の牧瀬氏をコーディネータとしたパネルディスカッションを拝聴した。テーマは、「第1期地方創生の総括と、第2期地方創生の現状と展望」であり、各副市長から主に人口減少と経済活性化について総括と展望について意見を伺った。それぞれの総括に基づき今後の展望として、春日部市では、人口減少が進んでも活力を失わない街作り、東大和市では、住宅都市として選ばれる魅力作り、西条市では、チャレンジを応援する街作りが示された。

5月14日には、先ず、「議会改革で住民福祉は向上したか？」をテーマに、議長経験者である兵庫県議会の相崎議員、あきる野市議会の子籠議員、可児市議会の川上議員、会津若松市議会の目黒議員をパネリストに、早稲田大学マニフェスト研究会の中村事務局長をコーディネータにしたパネルでディスカッションを拝聴した。それぞれの議会の紹介や、過去に受賞したマニフェスト大賞の事例を含め議会改革による住民福祉の向上への影響について説明をいただいた。マニフェストを検証するこ

り、牽引役となること、DXの難しさは各分野における共有化であり拡張性の確保ならびに弱者対策であると示された。また、DXを推進するためには、首長自らがCDOとなり取り組んでいくことの必要性も示された。

この2講演を拝聴した後、東京ビッグサイト青海会場で催されていた教育総合展を視察した。こちらの会場では、十分な時間が確保できなかったため、数社のブースにおいて教育現場の課題等について説明を受けるに止まった。その中では、教育の現場において紙ベースでの小テストなどが多く実施されており、デジタル化の足枷となっているとの説明もあった。

5月13日には、先ず、福井県若手職員により政策提言の仕組み並びにAIを活用した防災の取り組み事例を聴かせていただいた。勤務時間中の20%を政策提言を作成するために配分し、チャレンジ政策提案制度を設け、主体的にグループを作り知事に直接プレゼンするとか、AI音声技術を活用し24時間365日情報提供を受ける事の出来る実証実験などの説明を受けた。次に、BBT大学の谷中教授よりリアルとオンラインを交錯させた地域プロモーションの講演をいただいた。プロモーションの目的仕組みの説明を示された後、高知県の竹虎、奈良県における材木の擬人化等の事例を挙げられ問題解決型の地方創生ではなく価値創造型の地方創生の重要性を説かれ、イノベーションを生み出す4つの原則として、直感的な行動、利害関係者との協業、既成概念にとらわれない新しい価値の創造、縁を活用したビジネスの成長を示された。加えて、アバターを使った観光・教育についても説明いただいた。最後に、春日部市副市長種村氏、東大和市副市長小島氏、西条市副市長越智氏をパネリストとし、関東学院大学の牧瀬氏をコーディネータとしたパネルディスカッションを拝聴した。テーマは、「第1期地方創生の総括と、第2期地方創生の現状と展望」であり、各副市長から主に人口減少と経済活性化について総括と展望について意見を伺った。それぞれの総括に基づき今後の展望として、春日部市では、人口減少が進んでも活力を失わない街作り、東大和市では、住宅都市として選ばれる魅力作り、西条市では、チャレンジを応援する街作りが示された。

5月14日には、先ず、「議会改革で住民福祉は向上したか？」をテーマに、議長経験者である兵庫県議会の相崎議員、あきる野市議会の子籠議員、可児市議会の川上議員、会津若松市議会の目黒議員をパネリストに、早稲田大学マニフェスト研究会の中村事務局長をコーディネータにしたパネルディスカッションを拝聴した。それぞれの議会の紹介や、過去に受賞したマニフェスト大賞の事例を含め議会改革による住民福祉の向上への影響について説明をいただいた。マニフェストを検証するこ

概要

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年 7月 7日 ~ 令和 3年 7月 8日		
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議		
出張先	早稲田大学大隈記念講堂		
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	全国地方議会サミット 2021 改革から変革へ デジタルで議会が変革する		
対応者/講師名	早稲田大学名誉教授 (株)NTTデータ企画調整室長 デジタル改革担当大臣 大阪府議会議員 茨城県取手市議会議員 神奈川県横浜市議会議員 早稲田大学LM研究所事務局長 大正大学社会共生学部教授 福島県会津若松市議会議員 岐阜県可児市議会議員 日本生産性本部 法政大学総長 元衆議院法制局参事 滋賀県大津市議会議員 東京都墨田区監査委員 神奈川県茅ヶ崎議会事務局長補佐 (株)チューリップテレビ 月刊ガバナンス編集主幹 毎日新聞社論説委員 朝日新聞記者 NHK報道局記者 早稲田大学名誉教授	北川 正恭 氏 松本 良平 氏 平井 卓也 氏 前田 将臣 氏 齋藤 久代 氏 鈴木 太郎 氏 中村 健 氏 江藤 俊昭 氏 清川 雅史 氏 川上 文浩 氏 野沢 清 氏 廣瀬 克哉 氏 吉田 利宏 氏 清水 克士 氏 浜田 将彰 氏 臼井 明子 氏 砂沢 智史 氏 千葉 茂明 氏 人羅 格 氏 山下 剛 氏 杉田 淳 氏 片山 善博 氏	

得られた成果
市政への反映点
今後の課題点
など

政府が進めるデジタル化についての理解を深めると共に、先進自治体の取り組みを知ることが出来た貴重な機会であった。また、議会（事務局職員の声や報道関係者の声を聴くことで、別の視点からの議会を知ることにも出来た。議会自身の権能を高め、チーム議会として活動していくために議会事務局と協力をしながら、議会として取り組むべき目標設定をし、住民福祉の向上に努めていきたい。そのための議会改革・議会事務局の権限強化にも取り組んでいきたい。これから進んで行くであろうデジタル化にも対応できるよう、住民ニーズに応えられるよう自身の研鑽にも務めていきたい。

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年 7月 20日 ~ 令和 3年 7月 21日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	全国市町村国際文化研修所
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	令和3年度第2回市町村議会議員特別セミナー
対応者/講師名	滋賀県知事 三日月大造 氏 京都大学大学院法学研究科教授 曾我 謙悟 氏 明治大学政治経済学科教授 加藤 久和 氏 東京大学大学院上方学環教授 越塚 登 氏
目的	地方行財政について学ぶ
概要	スケジュール 1日目 13:15~14:45 講義 本当の意味での「健康しが」へ 15:05~16:35 講義 改めて議会とは何かを考える —政治学の知見から— 16:45~17:00 入寮オリエンテーション 2日目 9:00~10:30 講義 人口減少社会における地方自治の役割 —地方創生・東京一極集中と新たな国土作り— 10:50~12:20 講義 Society5.0時代の到来と行政のデジタル化 12:20~12:30 事務連絡

<p>概要</p>	<p>上記スケジュールにより各講師より講義をいただいた。</p> <p>1 日目は、まず、三日月知事より滋賀県での「健康しが」の取り組みを紹介していただき、人の健康・社会の健康・自然の健康について問いかけをいただきながら未来の土壌作りについての試みを紹介していただいた。次に、曾我教授より、議会の議論の必要性・重要性について「決定」の仕方を例に説明をいただき、議会が果たしうる役割と可能性についての見識を深めた。</p> <p>2 日目には、加藤教授から、人口減少・人口移動（東京一極集中）の現実を検証し、地方創生における自治体の役割と課題について講義をいただいた。続けて、越塚教授から、Society5.0 時代における行政のデジタル化について、デジタルの現状と課題、自治体のデジタル化の現状と課題、各地域での取り組みのポイントの3項目を大項目として講義をいただいた。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>4 講義の内最初から3 講義は比較的抽象的であり、今認識している課題とその対応を再認識するもののように感じた。Society5.0 時代の到来と行政のデジタル化は、世の中は結構デジタル化が進んでいる中で、過去の遺物を残しながらの利便性の向上やデジタル化に取り組む前の状況が成熟していたことがデジタル化の妨げとなっていたり、学校・行政の取り組みが進んでいない事について問題提起がされた。住民に喜んでもらうことを目的に改革を進めるべきであり、個々の手続きの一貫性・重複提出の廃止・ワンストップの3原則を実現できるよう改革をしていきたい。今回紹介していただいた事例を検証しながら本市におけるデジタル化の推進に務めたい。</p>

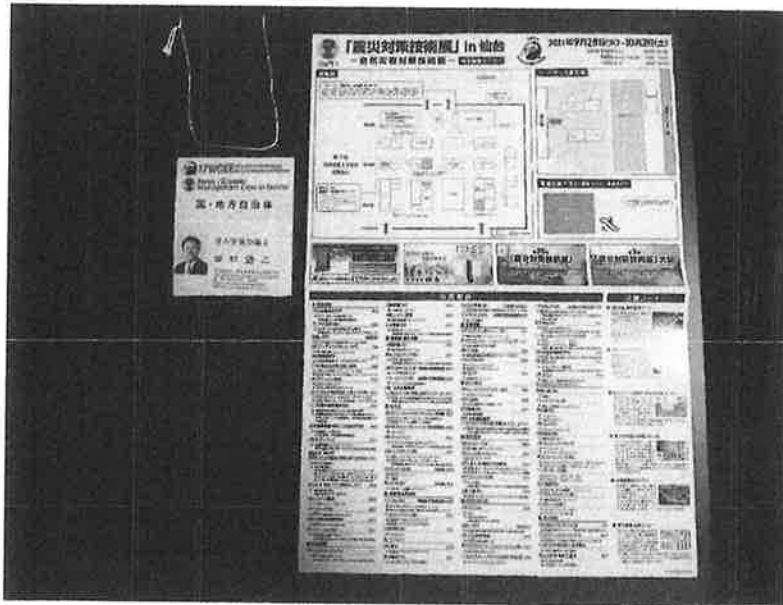
出張報告書

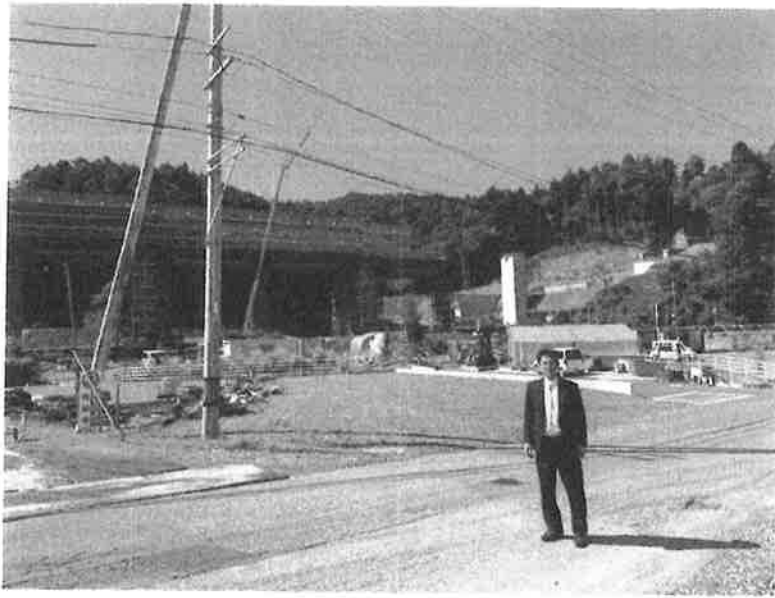
津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年 9月30日 ~ 令和 3年10月 2日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	仙台市、石巻市、女川町
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	仙台城 VR ゴー、VR 技術を使った歴史的風景の再現 震災対策技術展 in 仙台 石巻市・女川町震災復興状況 視察
対応者／講師名	宮城県護国神社英霊顕彰館学芸員 伊藤尚太 石巻市復興政策部震災伝承推進室 小野 諒 女川町観光協会事務局長 遠藤琢磨 女川町観光協会事務局次長 阿部真紀子 女川町ゆぼっぽコンソーシアム副支配人 木田宗毅 他
目的	史跡のバーチャル化について学ぶ 災害対策について最新の情報を収集する 被災地の復旧状況を確認することで災害対応の知識を深める
概要	9月30日には、仙台城 VR ゴーと VR 技術を使った歴史的風景の再現を体験するため仙台城を訪れた。先ず、青葉城本丸会館で専用スクリーンを借り史跡内を巡り仙台城 VR ゴーを体験した。途中、別システムによる VR 体験スポットではスマートフォンで藩政時代の町並みを体験した。 10月1日には、第17回世界地震工学会議と同時に開催されていた震災対策技術展 in 仙台を視察するため仙台国際センターを訪れた。セミナーでは、事前に申込みをしていた「東日本大震災の教訓をデジタルの力で未来に共有する」と題した東北大学災害科学国際研究所准教授の柴山明寛先生より様々なアーカイブについて説明いただき、この記録をどのように未来に共有していくかを考える機会をいただいた。続けて、「東日本大震災の状況を振り返り、安否確認サービスで必要となる機能とは

<p>概要</p>	<p>何か」と題し、京セラコミュニケーションシステムの武田康一氏より安否確認サービスの機能などについて説明していただいた。他にも、「あの時」への終わらないリベンジ」と題し、NHK 仙台放送局アナウンサーで震災当時に放送を担当した杉尾宗紀氏に命を守る情報発信について講演いただいた。展示場では、本市においても一部採用している水道排水用ポリエチレン管やプライバシーパネル付きの折りたたみ式段ボールベッド、折り畳み式電動資機材搬送車、油圧駆動式排水ポンプ、土壌による浄化力を活用した水土浄化システム、避難時の水分摂取量卵を提言させる濃縮イオン均衡液、災害用トイレキット、Jアラートのような災害情報をより詳細な区域で発信できる S アラートシステム、戦隊ものを活用した子供向けの防災啓発番組他多岐にわたる新たな技術・製品を見ることが出来た。</p> <p>10月2日には、被災地である石巻市震災遺構大川小学校を訪れ、大川震災伝承館も併せて視察をさせていただくと共に大川小学校卒業生の声も聴かせていただいた。その後、防潮堤建設現場や付け替え道路の建設現場を視察した。引き続き女川町を訪れ女川町観光協会事務局長と事務局次長から多くの資料をいただいた上、震災時の状況や復興された現状について説明をしていただき現地を視察させていただいた。女川駅に併設されている「女川温泉ゆぽぽ」では副支配人から施設の現状等について説明をいただいた。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題 など</p>	<p>仙台城においては、採用してある VR 技術を体験させていただいたが、移動経路が限定されていたり、ジャイロセンサーの感度にやや問題を感じた。本市で採用する VR にはやはり肥前名護屋城で採用してあるシステムがベストのように思われる。防災技術展では、多くの新しい技術・製品を知ることが出来た。担当課には、いただいてきた資料を見せ、本市の防災や災害対策に利用したい。また、講演で得た知識も共有したい。復興の現場を見ると震災より10年が経過しているにもかかわらず工事の進捗が遅いように感じられた。一日も早い復興を願う。女川町においては、コンパクトシティとして素晴らしい街が復興されているように感じられた。住宅・役場・学校は高台に移動され、駅前も機能的にデザインされていた。本市のまちづくりの参考になるものと感じた。</p>









出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年11月 1日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	CIV 研修センター 新大阪東 E5 ホール
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	第 81 回教育委員会対象セミナー GIGA スクール構想 ICT 機器の整備計画/校務情報化の推進
対応者/講師名	教育家庭新聞社 大阪私立新巽中学校 教務主任 山本昌平氏 iJapan 株式会社 荻田望美氏 ジャパンリード株式会社 安本真樹氏 他
目的	1人1台端末の活用・ネットワークの整備等について学ぶ
概要	スケジュール 10:35~11:10 「1人1台端末の活用 -アプリ・クラウド・管理・オンライン研究発表会等 多彩な活用を支援-」 摂津市教育委員会 学校教育課 指導主事 宗木俊憲氏 11:10~11:20 休憩 11:20~11:55 「学校生活と学びを支える校内ネットワークの整備」 西宮市教育委員会 教育研修課 指導主事 吉田将司氏 12:00~13:00 休憩 13:00~13:35 「止まらないネットワーク構築のポイント -ネットワークの円滑化に向けて-」 キートンコンサルティング株式会社社長 松浦龍基氏 13:35~14:45 企業提案 ICT 機器の機能と活用事例 電子黒板・タブレットなど出店各社のプレゼンテーション 14:45~15:20 展示・休憩

	<p>15:20～15:45 「GIGA スクール構想のその先へ -生徒の自己実現を可能にする日常的な1人1台環境のあり方-」 大阪市立新巽中学校 教諭(教務主任) 山本昌平氏</p> <p>15:45～16:10 「1人1台端末を活用した授業改善 -ゼロから作り上げた授業環境-」 藤井寺市立藤井寺中学校 教諭(教育研究部長) 印南航氏</p>
<p>概 要</p>	<p>上記スケジュールにより各講師より講演をいただいた。</p> <p>摂津市教育委員会の宗木氏からは、国の GIGA スクール構想に先んじて令和2年9月より順次1人1台の端末を整備し、児童生徒に対しては、授業へのモチベーション向上、情報の収集、協働学習、最適な学習環境の確保をメリットとし、教職員に対しては、授業の効率化等を目的として統一したルールの基で活用をし、オンライン授業に対する保護者へのアンケート調査を実施しながら、学校と家庭が一体となった ICT を活用した教育を実施している。今後は、ICT 教育推進リーダー教員によるさらなる円滑なオンライン授業に取り組むとのことであった。</p> <p>西宮市教育委員会の吉田氏からは、小学校においては7年前から、中学校においては4年前から校内無線 LAN 環境の整備に取り掛かり、令和元年度からの ICT を活用した長期整備計画を策定するなかで、TV を使った朝会や全校集会を実施していた。国の GIGA スクール構想を受け、従来の課題を解決しながら端末を持ち帰って利用することを前提とした新たな整備方針を策定し、トラブル無く安全に使えるネットワーク環境の整備を進めたとのことであった。</p> <p>キートンコンサルティング株式会社の松浦社長からは、止まらないネットワークを構築するためのポイントについて技術的な面から説明を受けた。</p> <p>20の企業から各企業の持つ機器やシステムなどのプレゼンが1社3分30秒の持ち時間で行われた。</p> <p>大阪市立新巽中学校の山本教諭からは、縦持ち型の複数担任制度の導入やテストのあり方を見直し個人の成績の見える化を進め、生徒・教師の目指す生徒像を確立することで子供を主語にして考えるチームとしての教育環境を整備したうえでの ICT 機器を使った生徒活動の事例を報告していただいた。</p> <p>藤井寺市立藤井寺中学校の印南教諭からは、令和元年度からの2年間にわたる実践事例に基づいた今年度の取組みについて報告があり、ICT 機器を活用した授業環境を構築するためのポイントを教授いただき、研究結果をとりまとめた報告書をいただいた。</p>

<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>本市において ICT 機器を活用し、児童生徒の学力・学習意欲を向上させていくため、今回学んだことを本市教育委員会と共有しながら教育環境の充実に努めていきたい。ICT 機器も日々進歩しており新たな教育プログラムも開発が進んでいる。以前は、通信は途切れることを前提とし、トラブルが起きたときの対応を検討しておくべきとの考えがあった。しかしながら、現在開発されている機器を見ると、各学校・各家庭までの通信環境が整備されているならば、通信が途絶えた場合の対策は不要と思えるところまで来ている。今回出展されていた事業者からの情報提供も受けながら本市の教育の向上並びに通信環境の拡充を進めていきたい。</p>
---	---

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年11月24日 ~ 令和 3年11月25日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	東京ビッグサイト青海展示棟
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	アグロ・イノベーション2021 鳥獣対策・ジビエ利活用展2021 草刈り・除草ワールド2021 アグロビジネス創出フェア インフラ検査・維持管理展 視察
対応者／講師名	小川農園 小川浩康 (株)MOGITATE 北河博康 (株)笑農和 下村豪徳 RobiZy 佐々木剛 農林水産省鳥獣対策室長 仙波徹 (一社)日本ジビエ振興協会 藤木徳彦 (株)チカト商会 山本暁子 京都大学名誉教授 伊藤操子 ケルヒャージャパン(株) 瀧澤洋介 他
目的	農業・有害鳥獣対策・ジビエ利活用・インフラ検査について学ぶ
概要	11月24日 12:00~12:40 国産ジビエの概況と外食産業での展望について 藤木徳彦 14:00~14:40 若手農家の取組み事例 小川浩康 15:00~16:30 スマート農業を加速するための仕組み作りと課題 北河博康、下村豪徳、佐々木剛 11月25日 11:00~11:40 鳥獣被害対策・ジビエ利活用のための取組み 仙波徹

- 13：00～13：40 私の移住生活レビュー 山本暁子
- 14：00～14：40 雑草の猛威の前に草刈は気休め 伊藤操子
- 15：00～15：40 環境に優しい温水除草システム 瀧澤洋介

上記のスケジュールで各セミナーに参加した。セミナーの間に展示してある草刈り機・ジビエ加工品・鳥獣対策機器・農機具等を視察し、インフラ整備に関する技術について学んだ。

初日のセミナー「国産ジビエの概況と外食産業での展望について」では、ジビエを食肉として流通させるため、ガイドライン、カットチャートを策定し、トレーサビリティを明確にし、ジビエ認証の制度を作り安定供給する仕組みに取り組んでいるとのことであった。大手外食産業への提供や自衛隊駐屯地への提供も行いながらジビエの付加価値向上に努められていた。また、ジビエサミットを開催することでジビエの情報提供をし利用拡大に取り組んでおられた。本年7月より「GOGO GIBIER プロジェクト」を始められている。次に、「若手農家の取組み事例」では、全国の農業者が農業を身近に感じてもらうことを目的に「農カード」を作成している。このカードには、「農業に興味を持ってもらう」・「若い人が農業をしているのを知ってもらう」・「大切に農産物を食べてもらう」などの期待を寄せ作成しているとのこと、元になったのは、青森県の「漁師カード」だそうである。このカードを作り配布することにより農家同士がつながり、生産のモチベーションが上がるという効果があるということである。生産者から直接購入する機会が増えることで生産者・消費者ともにメリットのある取組みである。初日最後の「スマート農業を加速するための仕組み作りと課題」では、株式会社MOGITATEの北河氏が“スマート農業の最新動向と今後の方向性”、株式会社笑農和の下村氏が“笑農和が提供するスマート農業のカタチ”、RobiZyの佐々木氏が“大きく育てるために小さく始める”スマート農業の普及・促進で地方創生を実現へ”と題して講演をした後パネルディスカッションを行った。新たな技術を使うスマート農業において、課題としては、人・物・金がない。しかし、農業を輝かせることは可能で、農機具メーカーにたよらない発想と技術開発が重要になってくる。との結論に達した。

2日目の「鳥獣被害対策・ジビエ利活用のための取組み」では、令和元年度実績で約158億円の被害が有害鳥獣により発生している。対策を考える上では、ICTを活用し被害や有害鳥獣捕獲状況をデータ化する必要がある。そうすれば、基礎自治体で作戦を立てることができ、被害の減少に繋げることができる。ジビエの利活用も被害対策に有効に働く。解体施設を建設し、捕獲個体の受け入れ体制を充実させることは重要で

<p>概 要</p>	<p>ある。とのことであつた。次に、「私の移住生活レビュー」では、都市部から農村部へ移住し、狩猟をしながら農業に従事している生活を紹介していただきながら、田舎で暮らすためのコツを教授していただいた。重要なのは、地域からの信頼を得、キーマンと出会うことだそうである。続いて、「雑草の猛威の前に草苺は気休め」では、各種植物の特性を教えてください、どうすれば管理できるのかを教授いただいた。多くの外来種が繁茂し草苺が大変な負担となっている。管理がやっかいな植物を駆除し管理しやすい植物へ変換していくことを進めていくことが必要とのことである。「環境に優しい温水除草システム」は、温水高圧洗浄機にアタッチメントを装着し熱湯を根に与えることにより枯死させる技術で、除草剤に頼らない画期的な除草手段である。ただし、根まで枯死させるため使用できる場所が限られてくるのと他の植物を育成している場所との境界との間に間隔を開ける必要があるのが問題となる。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題 など</p>	<p>有害鳥獣被害を削減していくことは農業者の重要な課題である。同時に雑草の問題も解決していくべき課題となっている。農業従事者の生産意欲を向上させるために、今回見聞きしてきたことを参考に、ジビエ利活用、有害鳥獣対策、農業の活性化を推進しながら、本市の発展に努めていきたい。</p> <p>既設道路の点検をする機材、プログラムについても視察をした。本市の持つインフラの点検管理に活用を考えていきたい。</p>

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 3年11月27日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	岡山シンフォニーホール
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	岡山イノベーションコンテスト 2021
対応者／講師名	主催：中国銀行 山陽新聞社 公益財団法人 サンマルク財団
目的	新規事業のアイデアを学ぶ
概要	岡山・備後の地から次世代を担う起業家精神を持った人材を発掘、育成、表彰することで岡山県内の創業機運を高めるようとするプロジェクトであり、2017年から開催され今回で5回目となる。第4回より賞金が減額されてはいるが、今回も素晴らしい提案がされていた。本年は、ビジネスプラン部門高校生の部では「生きた化石と人類の共栄～人類を救う！カブトガニ牧場～」、大学・専門学生の部では「全国の就活生の面接を閲覧&分析できる「面接図鑑」」、ビジネスプランの部では「ホビー向け工具・コンテンツで地元企業とともに世界に挑む」、ビジネスの部では「データ駆動型ウェルビーイングを叶える母子手帳の拡大DX事業」、が各部門での大賞となり、グランプリには「データ駆動型ウェルビーイングを叶える母子手帳の拡大DX事業」が選ばれた。本年も過去のコンテスト同様、高校生、大学・専門学校生などの若者も参加した地域の活性化や新規事業の事例を学べる機会であった。食用コオロギの生産や超耐久性低炭素型コンクリートについての発表にも非常に興味を持った。

概 要	<p>基調講演では、株式会社 AMF の椎木里佳氏より「これからのビジネスに生きる Z 世代マーケティング」と題した女子中学生・女子高生の思考調査、サイレント世代から Z 世代の特徴について学んだ。</p>
得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	<p>今回も幅広く新しい技術や発想に触れられる良い機会であった。 本市において、起業家を育成し、新たな事業展開が可能となる環境整備をしていきたい。</p>

令和 4年 3月 18日

出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 3月16日 ~ 令和 4年 3月18日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	東京ビッグサイト
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	スマートエネルギーweek 春 2022 第33回日本ものづくりワールド 視察
対応者/講師名	経済産業省 桑原崇浩 (土屋博史変更) (一社)カーボンリサイクルファンド 北村雅良 (公財)自然エネルギー財団 大林ミカ (一社)再生可能エネルギー長期安定電源推進協会 眞邊勝仁 清水建設(株) 関口 猛 三菱商事エナジーソリューションズ(株) 岩崎芳博 経済産業省 荒木太郎 (株)アルム 平山京幸 テトラ・アビエーション(株) 中井 佑 他
目的	脱炭素・再生可能エネルギーの活用・ものづくり産業振興 について学ぶ
概要	3月17日 10:00~11:00 気候変動対策のカギを握る、CCUS/カーボンリサイクル技術の取組みと展望 桑原崇浩 循環型炭素社会実現に向けたカーボンリサイクルの展望と課題 北村雅良 12:00~13:00 自然エネルギーの規制改革:再エネタスクフォースの活動 大林ミカ ポスト FIT 時代における太陽光発電ビジネスの展望 眞邊勝仁

概

要

14 : 30～15 : 30 洋上風力の導入拡大に向けた取組 関口 猛
 三菱商事エナジーソリューションズの洋上風力への
 取組み～ “つぎ” を創る～ 岩崎芳博

3月18日

11 : 45～13 : 15 未来企業のデジタル化と DX 推進～スマートかつ強
 靱な地域経済社会の実現～ 荒木太郎
 製造系人工知能 (PAI) が切り開く製造業の未来
 平山京幸

14 : 15～15 : 00 「空飛ぶ車」 (eVTOL) をめぐる世界の動向
 中井 佑

上記のスケジュールで各セミナーに参加した。セミナーの間に展示し
 ている太陽光パネル・蓄電池システム・燃料電池システム・風力発電シ
 ステム・水素発電システム・3D プリンタ等を視察し、新たな発電技術
 やカーボンリサイクル、ものづくり産業に関する技術について学んだ。

初日のセミナー「気候変動対策のカギを握る、CCUS/カーボンリサイ
 クル技術の取組みと展望」・「循環型炭素社会実現に向けたカーボンリサ
 イクルの展望と課題」では、カーボンリサイクル政策の背景、国際的な
 動向、政府の取組み、今後の展望、カーボンリサイクルファンドの設立
 目的・活動について講演いただいた。次に、「自然エネルギーの規制改革：
 再エネタスクフォースの活動」・「ポスト FIT 時代における太陽光発電ビ
 ジネスの展望」では、自然エネルギーの活用を阻む規制等を総点検し、
 規制改革を実現するためのタスクフォースの活動、FIP 制度が開始され、
 非 FIT での市場が広がっていく中での太陽光発電事業の展望について講
 演いただいた。初日最後の「洋上風力の導入拡大に向けた取組」・「三
 菱商事エナジーソリューションズの洋上風力への取組み～ “つぎ” を創
 る～」では、今後、拡大していくであろう洋上風力発電の取組みにつ
 いて紹介していただくと共に、秋田県沖及び千葉県沖での洋上風力発電
 事業コンソーシアムの事業について紹介いただいた。

2日目の「未来企業のデジタル化と DX 推進～スマートかつ強靱な地
 域経済社会の実現～」・「製造系人工知能 (PAI) が切り開く製造業の未
 来」では、まず、事業活動を継続していくために必要な DX を加速させ
 るために、今後の地域経済産業の目指すべき方向性、取組み事例、国
 の事業について紹介いただき、続けて、生産革命をもたらす製造系人
 工知能の詳細と10年後の製造業にもたらすインパクトについて講演い
 いただいた。次に、「空飛ぶ車」 (eVTOL) をめぐる世界の動向」では、
 空飛ぶ車の開発状況、需要等について説明いただいた。

<p>概 要</p>	<p>ブース内では、水素発電システム・再生可能エネルギー事業・太陽光パネルリサイクル・蓄電池・風力発電・3DCAD・断熱・3D プリンタ・各自治体のものづくり等を視察した。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題 など</p>	<p>1日目の講演・視察からは、二酸化炭素の排出削減のみでなく二酸化炭素を資源として考え、再利用により排出を抑制するカーボンリサイクルについて知見を深めることができた。また、再エネタスクフォースの活動についても知ることができた。再生可能エネルギーの利用を促進していく中、太陽光発電施設・風力発電施設による自然への影響を最小限にしながら新エネルギーの導入（例えば水素による発電、風車を使わない風力発電など）・低炭素の取組みに寄与していきたい。</p> <p>2日目の講演・視察からは、全国におけるものづくり技術、国の方針、新技術について知見を深めることができた。昨年会派視察で訪れた、燕三条地場産業振興センターも参加されていたので、ブースを訪れ昨年の御礼と現況を知らせていただいた。この度知り得たことで、本市におけるものづくり産業の振興に寄与したい。合わせて、次回以降のものづくりワールドには本市にも参加を検討してもらおうべく、資料を配付する。</p>